

「知事とのフレッシュトーク」(平成28年10月17日実施)の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成28年10月17日(月)に大間町の県立大間高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

◆開催◆

【意見交換】

○ 発言者1(3年、女子)

私の住んでいる大間町は、マグロで有名な町です。また、漁師町とも呼ばれており、イカやウニなど、美味しい魚介類が豊富です。北海道新幹線が開業となり、これを機会により多くの観光客の方に大間町に来てもらえるように、マグロを筆頭に新鮮な海産物をPRできないかと考えています。

青森県は短命県であり、短命県返上には、食生活の見直しが必要です。例えば、マグロには、コレステロールを調節する不飽和脂肪酸が多く含まれています。県内の他の地域にも、りんごやニンニクなど、健康的な食材が豊富です。

そこで、短命県返上を掲げる策のひとつとして、各地域の健康的な食材を使った「短命県返上レシピ」を作成してはどうでしょうか。これは、青森県のPRにもなり、一石二鳥になると思います。



○ 知事

マグロは美味しいけど、脂が多すぎて最近、自分で食べる時は赤身を食べるようにしています。美味し過ぎるものね。

下北の美味しいものといえば、「ウニ」です。生きているウニばかりで美味しいものね。下北になんだかんだって20何年通っていますが、漁師さんのところに行くと「知事、ウニを食べてけ」と言ってくれます。美味しいですね。

青森県では、それぞれの地域で、どんな美味しい料理、どんな美味しい食べ物があるか「食のエリア」をあげて全国にキャンペーンしています。特に大間のマグロはすごいよね。青森県フェアで、大間のマグロを持って行って解体ショーをやったり、どんどんPRしています。また、青森の美味しい魚は、マグロだけじゃなくて、いろいろなものがあるよと、青森県産品のいろいろなキャンペーンを実は全国で続けています。

だから、大手のスーパーで300億円ぐらい青森県のもものが売れるようになったり、海外でも200億円売れるようになったり、どんどん、どんどん取組を続けています。青森県産品は良いものがあるので、「決め手は青森県産品」といってどんどんPRしています。

○ 下北地域健康福祉部職員

県庁の各部署でいろいろメニューを作っています。下北の食材を使った親子で作るヘルシーご飯のレシピコンテストをやったり、若い人たち向けに、簡単に地場産品を使って出来る料理のメニューを作っています。

○ 知事

下北地域には、大変大きな課題があります。短命という言葉がありますが、小、中、高校とも肥満傾向、はっきり言うと体格が良いのはいいのですが、将来、糖尿病になるのではないかと危険がいっぱいあるので、下北の食材を使ったヘルシーなメニューや下北の健康づくり活動などをむつ市長たちと一緒に進めています。

○ 下北地域県民局長

肥満は、万病の元なので、毎朝体重計に乗って、「増えたな、減ったな」と自分の体重を管理すれば、食べ過ぎを防げるのではないかと思います。もう一つは、塩分の摂り過ぎです。しょっぱい筋子は美味しいですが、どうしても白いご飯を食べ過ぎてしまい、太る元になるので、青森県はもっと減塩を進めなければいけないと思っています。

同じりんご王国なのに、長野県は長寿日本一で、青森県は短命県です。その一番の違いは野菜の摂取量です。野菜を食べる、野菜から食べることが青森県と長野県では圧倒的に違います。長野県の人たちは、とにかく野菜を食べます。その野菜の量こそが日本一と、残念ながらそうでない青森県の違いになっていると言ってもいいと思います。この機会に野菜を食べることがいかに大事であるかを皆さんで共有しながら、青森県を一日も早く短命県から脱出させるために一人一人が頑張っていきたいと思っています。

○ 知事

本当に下北の子どもたちは、健康状態が悪くなっているのです、こういうレシピコンテストなどを行って頑張っています。

青森県の病気の課題は、40代、50代で人が死んでしまうことです。お酒の飲み過ぎ、たばこの吸い過ぎ、塩分の摂り過ぎがあります。お酒は、今さら止めましようと言ってもなかなか止めてくれません。皆さんは、高校生なので、まさか吸っていないと思うけれども、吸わない方がいいです。

でも、一番、手を付けやすかったのは塩です。塩分を摂り過ぎるとどういうふうになると思いますか。塩分を摂り過ぎると、まず血圧が高くなります。血圧が高くなるということは、血管がドクドクドクッてなります。そうすると、脳の血管が切れたり、心臓が止まってしまう。あと、もっとつらい病気は腎臓です。腎臓は2つありますが、腎臓が悪くなると、透析をしなくていけなくなります。それで、むつ総合病院に今、新しい透析センターを作っています。

そこで、今日は、塩分を取り過ぎたときのためにも、我々が進めている「できるだしダンス」をやります。コンブが下北にあるでしょう。焼ぼしもありますね。そういうだしを使うと塩を使わなくてももう美味で食べられるので、我々、青森県では「できるだしダンス」をやって、「だ

しを使おう！」と、県内のスーパーを年間50ヶ所ぐらいで歌って踊ってキャンペーンをしています。“だしを使うことによって、塩分を摂るのを減らそう。だし活、うま味で手軽に塩分コントロール”「できるだしダンス」やってみましょう。せっかくですから、ここに座っている5人の生徒の皆さん、立ってやってみましょう。

【知事が「できるだしダンス」を指導中】

すごい簡単で、結構、運動になるので、ダイエットにもばっちりです。私なんか、年間スーパーを50ヶ所回ると結構お腹が減って食べ過ぎるんだけどね。それでは、一緒にやってみよう。

【できるだしダンスを披露】

塩分を減らそうって口で言っても、全然、皆さんにはピンとこないので、だしチームを作って踊ってキャンペーンして歩いています。

いろいろなだしを作りましたが、「だしパック」は10万パックも売れています。売るのが目的ではないけれども、買ってもらうことによって、だしを使い1日8g以下に塩分を抑えることで、心臓や腎臓に負担がかからないように、こういうキャンペーンをしています。

レシピも作って、実践するしかありません。地道にこうやって活動しています。大事ですよ、口でやると言うよりも、自分でもやってみせます。だから、最近は、料理も自分でちゃんと作っていて、昨日は、白菜と水菜のしゃぶしゃぶを食べましたが、できるだしパックを使って、そのスープだけで食べられるようにしました。

皆さんに本当にお願ひします。トマトあと1個食べてくれれば、1日の野菜摂取量が100gになるので、すごく元気になります。あと、バス通学だと思うのですが、途中で降りて歩いてとは言えないけれども、クラブ活動をやっていない人は、「だし活ダンス」でもいいし、テレビゲームで運動するゲームもあるので運動してください。下北半島の小、中、高校とも全国一の厳しい状態で、先々、糖尿病になっていくので困っています。

保健の先生から健康づくりについてアドバイスをいただきましょう。

○ 先生

普段、皆さんを見ていると車で来ている子が多いので、雪が降る直前ぐらいまでは頑張って徒歩や自転車で来るとよいと思います。

○ 発言者2（2年、男子）

私は、野球部に所属しています。目標は下北で勝ち、県大会へ行き、甲子園予選で2勝することです。自分たちの経験と技術力向上を目指し、北海道遠征を年に一度しています。函館までは、直線距離で約20kmほどで移動時間は90分ですが、フェリーで移動しなければならないので、たくさんの経費と時間が必要です。



もし、大間と函館の間に橋があれば、車で30分で行けることとなります。そうすれば、何回でも遠征に行けるし、観光客も増えると思います。下北には恐山、仏ヶ浦、大間のマグロなど、自慢することがたくさんあるので、観光客を増やすためにも橋を架けて欲しいです。

また、現在、六ヶ所まで通っている下北道を大間町まで早くつなげてもらえれば、北通りの観光客がさらに増え、活性化になると思います。

○ 知事

我々青森県は、道路のネットワークがまだまだ出来ていないと思っています。特に、下北半島縦貫道路。でも、吹越バイパスは、むつ横浜の吹越までが来年出来ますし、着々と本線の方は出来てきます。本線が出来てくると、易国間までのルートなどいろいろなことを考える状況になっています。

○ 下北地域整備部職員

大間から函館まで約20kmありますが、その間は、国道279号、国道338号と海上国道と呼ばれ、海の上でもフェリーで繋がっている道路とみなされています。この間の約20kmを橋で繋ごうとすると、莫大な費用、2兆円以上かかると言われていています。瀬戸大橋は、全長12.3kmで1兆1,300億円、1m造るのに約9,200万円かかっています。瀬戸大橋の建設はかなり古い時代なので、単価もまだ安かったでしょうし、島と島を繋ぐことができました。津軽海峡のように海峡沿いに島がない状態ですと、かなりの額、瀬戸大橋の建設費の3倍、4倍になります。単純計算で約2兆円となると、県の道路予算を全部使っても58年かかってしまいます。

○ 知事

そういう状態なので、現実的には難しい状況かなという感じです。建設費約2兆円は昔の単価での計算ですね。瀬戸大橋は島伝いに作れますし、比較的水深が浅いです。津軽海峡は深いし、流れも速いので、瀬戸大橋は1m造るのに9,200万円かかったけれども、倍か、場所によっては4倍、5倍もかかります。今、単純計算で2兆円というけれども、4兆円、6兆円って言われたらどうしますか？なかなか厳しいかなと思います。

代わりに下北半島縦貫道路を頑張ります。むつ南バイパスも道路が出来るとすごい便利になります。先にこの本線を何としても繋がらないといけません。二枚橋バイパスも今、橋が架かりました。着実に進めています。

あとは、大函丸を使ってください。瀬戸大橋もそうですが、実は、橋は通行料金がとっても高く、船の料金の方が安いかもしれません。

○ 下北地域整備部職員

下北半島には、いろいろな道路がかなりたくさん計画されています。大湊バイパスや二枚橋バイパスなどかなり多くの事業を抱えています。また、原子力発電所があるので避難道路もかなり順調に整備しようと頑張っています。

○ 発言者3（3年・女子）

私は、地元大間町の活性化を目指す、まちおこしゲリラ集団「あおぞら組」や大間町役場の方々に協力してもらいながら、地元のPR活動を中心に活動する「めんちょこ活動部」に所属しています。活動を始めて7年目のめんちょこ活動部ですが、最近では新聞やテレビの取材を受けるなど、県内の他の地域の方々からも認知度も上がってきています。

そこで、活動の場を広げるためにめんちょこ活動部の代名詞とも言える旗振りを他の市町村や、将来的には県外でできたらと考えています。私たちの活動を知ってもらえることで、大間に来てくれる観光客の数が増加することを目標とすることはもちろんですが、過疎化が進んでいる他の地域の活性化のきっかけやヒントとなればとも思っています。

また、めんちょこ独自の活動の他にも、「高校生おもてなし隊」のように県内の高校生が連携してPR活動をもっと活発にできれば、県全体の活性化にも繋がると思います。2011年に「高校生おもてなし隊」に参加している高校生が大間高校に集まって合宿をしたと聞いています。ですが、現時点では、県内の高校生が集まって活動することは、時間的にも地理的にも難しい状況にあります。ですので、県内の活性化のために活動している高校生が意見を交換したり、一緒に活動する場を設けることに協力して欲しいです。

○ 知事

かつて青森西高校から提案があつて、「高校生おもてなし隊」という取組を始めたことがありました。新青森駅開業があり、教育庁が県内の高校の皆さんに声をかけて、皆で「おもてなし」を一緒にどうしたらやれるか、やってみようと、かつて「ウェルカム人づくり推進事業」という事業を行ったことがあります。それ以降、確かに、なかなか連携が進んでいないのも残念だなという思いです。



でも、今日はまず体を使おうと思っているので、旗を借りて、2人でおもてなし隊の練習してみましょ。

【2人で旗振りを実演】

一度やってみたかったので練習してみました。高校生もこうして頑張ってくれて嬉しいと思います。

それでは、我々がどういうふうに若い人たちの人財育成をしているかを下北県民局長から説明をさせます。

○ 下北地域県民局長

地域県民局の人財育成の取組では「下北若手人財塾」を開催しています。3年前から大間高校の生徒も夜遅くまで議論に付き合ってくれています。今、下北では、大湊高校川内校舎の生徒たちが、NPO法人ラブ川内栄寿国と一緒に炭焼き窯を作ったりと一生懸命頑張っています。

この地域には、例えば、島康子さんのような有名な方もいますが、消防団に入っている人や

目立たないけれども、朝に街頭に立って、子どもたちを交通事故から守っているような地域のために本気で頑張っている大人がいます。皆さんは、そういう大人の人たちに愛情の眼差しを向けられて、どんどん大きくなっています。

この地域の活性化を図るのは、お年寄りの熟練した技術や知恵と、若い人たちの元気、やる気、そして「自分たちがこの地域に何が出来るだろうか」、「自分を育ててくれたこの地域に対して、自分は何が出来るだろうか」という思いです。例えば、今、下北では、福祉、介護、看護の職種に人が足りないと言われていますが、人と関わる仕事、ここで生きてきたおじいさん、おばあさんに寄り添うような仕事はすごく意義があると思います。ですから、皆さんが将来を考える時には、この下北若手人財育成塾など、人の話を聞く機会、人と話す機会に積極的に自分から飛び込んでいきましょう。めんちょこ活動部の旗振りも恥ずかしかったと思います。でも、皆で「よぐきたの～、よぐきたの～」ってやっているうちに皆の笑顔や「ありがとう」という言葉が返ってきて、それでやりがいを感じていると思います。

皆さん一人一人がこの下北を支えていく大きな力です。皆さんの元気が、この下北の北通りを盛り上げていく、むつを盛り上げていきます。どうか他人事ではなくて、自分の問題として積極的に関わって行って欲しいなと思っています。

そのために、地域県民局は、これからもその本気の大人たちと皆さんが話し合う場を設定するなど全面的に応援していきたいと思っています。

○ 知事

下北は下北地域県民局、八戸の方は三八地域県民局、弘前の方は中南地域県民局と、県民局単位でそれぞれ局長たちが、地元の若い人たちの人財育成など、いろいろ取り組んでいます。

最初に紹介した「ウェルカム人づくり推進事業」は、昔、教育委員会が実施していた事業なので、昔やっていたような事業を一緒に出来ないかと提案があったことを教育庁にちゃんと伝えます。

それから、今、3年生だから来年卒業してしまうので申し訳ないのですが、毎年、九州で全国の「我こそは」という高校生が集まって、地域づくりのことやいろいろな自分たちの未来のことを話し合う、「日本の次世代リーダー養成塾」というものすごく大きな会があります。青森県から毎年十数名参加しています。2週間ぐらい行くのですが、皆、すごい喜んで、「知事、ものすごい勉強になりました」って、行った時と帰って来た時と顔つきが変わるぐらい、楽しいぞと皆言っていました。こういうことにも参加してくれたらいいと思います。ぜひ大間高校からも応募してください。参加するためには、ちょっとした面接がありますが、全国の高校生とのやり取りは面白いですよ。皆で選挙をやって、総理大臣を決めて議論したりします。応募してくれればその中から選ばれて、どんどんそういった会にも参加できるような仕組みを作っています。

青森県は、小学生にも中学生にも高校生にも、そういった人財育成、いろいろなことにチャレンジしたいという人たちが集まって勉強できる機会を作っています。

だから、地域おこし活動を一緒にやるのは、新幹線の開業の時にやって以来進めていないけれども、これからもしっかりと頑張っていくから、任せてください。

○ 発言者4（1年・女子）

大間高校では、1年生が「総合的な学習の時間」でエネルギー学習をしています。大間原発や六ヶ所原燃に見学へ行き、原子力発電について学んできました。原子力発電では、少しの燃料で大きなエネルギーを得られることを知ったのですが、放射性廃棄物の問題などがあることを学びました。

ここ大間では、風力発電が増えてきています。また、最近は太陽光発電を県内でも見かけるようになりました。原子力発電は、安全だということは学んだのですが、東日本大震災があった時に、本当に大丈夫なのか、不安でもあります。北通りには広い土地があり、毎日のように風が強いので、もっと風力発電を増やしたり、太陽光、地熱、潮流など、自然のものを利用して、より安全なエネルギーの供給をしてはどうでしょうか。



○ 知事

人が生きていくには水と食べるものとエネルギーがとても大事です。昔は山に行って薪を切っていたけど、その後は石炭を使い、さらにその後は石油をどんどん使っています。すごく二酸化炭素が増えて、増えて、世界中ものすごい大変な状態になっています。そういう中で、どういうふうなエネルギーを安全に、しかも確実に、安く提供できるかがすごい大きなテーマです。

我々青森県では、「青森県エネルギー産業振興戦略」を作って、再生可能エネルギーのこともすごくいっぱい取り組んでいます。例えば、風力発電は日本一やっていますし、今、太陽光発電も増えてきましたし、世界で初めてのスマートグリッドって言うのですが、太陽光や風力、地熱などを組み合わせて、それだけでエネルギーを供給する仕組みを八戸でやったことがあります。小学校、中学校を借りて、太陽光パネルや風車を付けたりと、再生可能エネルギーのことを一生懸命やっています。

この下北半島は、今、地熱。恐山もそうですが、温泉がいっぱい出るので地熱も含めて可能性が高いのではないかと進めています。

○ エネルギー開発振興課職員

再生可能エネルギーは、水力、地熱、バイオマス、太陽光、風力というようにたくさんありますが、そのほとんどが枯渇することがなく繰り返し使えて、発電時に二酸化炭素を排出しない、非常にクリーンなエネルギーです。

国は、再生可能エネルギーをどんどん広めようと、「固定価格買取制度」（FIT制度）という太陽光パネルや風車を付けると、その発電された電気をちょっと高めに買い取る制度を導入しています。

ご存じのとおり、青森市から下北半島へ向かって、野辺地町から横浜町、六ヶ所村を通ると、ものすごい風車があると思います。今年5月から大間町でも大型の風車が9基運転開始され

て、これと数年前に1基建っているのので、大型の風車が10基、皆さんの目に留まるようになったと思います。下北半島には非常に大量の風車が導入されていますが、これからもまだまだ建っていくことになっています。

また、津軽半島も、下北半島に比べると本数がとても少なかったのですが、固定価格買取制度が導入されたことによって、これからかなりの本数が建っていくことになっています。

10kW以上の風力発電所は下北半島、日本海側などの多く立地されています。立っている場所は風の道があるということです。青森県の中でも、風が通るところと通らないところがあり、建設する場所はどこでもいいというわけではありません。

これからも風力発電はますます導入が進んでいくこととなります。県では、「青森県エネルギー産業振興戦略」を今年3月に改定して、風力発電は2030年までに2014年の4倍、また、再生可能エネルギー全体でも5倍導入しましょうと県をあげて頑張っています。

ただ、少しだけ課題があります。それは、発電量です。今日、私がここに来る時は風車が止まっていたましたが、冬はたぶん毎日回っていると思います。回っていたり、回っていなかったりとちょっと不安定な部分が若干あります。また、送電線の容量が不足することが起きていて、発電しても送電できないことが懸念されたり、風車を建てる時に、鳥がぶつかったり、渡り鳥に影響しないかなど環境アセスメントをきちんとやりますが、何年間もかかったりします。

風は、皆さんの、そして青森県の財産ですから、将来的にもエネルギーの供給が増加することを我々も期待して応援していくので、皆さんも大きくなったら、もっと安定した蓄電池などをもっと安く開発して、クリーンな電気をどんどん入れるような研究にもぜひ取り組んでもらって、再生可能なエネルギーをバックアップして欲しいです。

○ 発言者5（3年・女子）

私は、佐井村から大間高校に通っています。将来は、その佐井村をはじめとする地元を中心に教師として働きたいと考えています。そのため、高校卒業後は県内の大学への進学を希望しています。

しかし、佐井村から進学するとなると、どうしてもアパートを借りたり、寮に入らなければなりません。奨学金を借りてやっとの思いで授業料を払い大学に行けたとしても、さらに生活費となると自宅から大学に通える人たちと比べ、多くの経済負担がかかってしまいます。そのため、本当は大学に行きたくても経済面を理由に進学を諦めてしまう、北通りをはじめとする地方出身者が青森県には多くいるはずですが。



そこで、地方出身者が少しでも安く入れるシェアハウスのような建物を作ったり、建物を造るとまではいなくても、県営住宅や民間のアパートと連携して、地方出身者の割引のようなものがあれば、地方出身者でも進学しやすい環境を作っていくことができるため、県内の進学率を高くすることにも繋がるし、青森県に留まりたいと考える人も増えると思うのですが、どうでしょうか。

○ 知事

県内に留まってくれるためにも頑張ります。県では、新しい制度を作りました。奨学金をもらって進学すると、佐井村から例えば弘前市に行くことになった時に、いろいろ揃えなきゃいけないものが出てきたり、引っ越しもいくら安い料金のもを選んでも、さまざまな準備をすると県内でも20万円から30万円ぐらい奨学金をもらう前にかかります。まして、仙台や東京に行くと、50万円、100万円とかかかってしまうことが実はすごくあります。また、私立大学等での入学金も納めなくてはいけなかったりすると150万円かかることもあります。

非常に限られる要件を付させてもらったのですが、今、県が全国で初めて新しくスタートした制度が、どこの学校に行っても、県内に帰ってきて就職してくれれば、返還が免除になるというものです。東京の大学に行って東京で勤めたとすれば、いずれ返してもらいますが、入学する最初の時にかかる大きな費用をお貸ししますというものです。ただ、単身世帯や児童養護施設で育った生徒、評定平均値4.0以上の学力が必要などちょっと厳しい部分はあります。

県は、今、その他にもいろいろな制度を用意しています。チャレンジする人たちをぜひ応援したいという思いがあります。

○ 学校教育課職員

大学の入学時奨学金は、2次募集が9月20日まで行われて、まだ定員にゆとりがあるので3次募集が間もなく始まります。返還免除ですし、仮に返還することになっても無利子なので、ぜひ活用して、自分の将来の思いを遂げて欲しいなと思っています。

寮については、新しい建物を建てるのは、なかなか時間がかかるし、お金もかかることなので、既存の大学等の寮の話をする、実際に青森県立保健大の学生寮は、女子、男子とも1年生のみですが入寮できて、経費も大体2万円を切る程度ですので、アルバイトや1年目は親に少し頼っても、県外に進学することに比べると負担にならないかなと思っています。

弘前大学の学生寮は男子寮が2つ、女子寮が1つあり、定員もかなり多いです。弘前でアパートを借りると大体3万円ぐらいですが、寮費と食費込みで4万円程度であれば、アルバイトの時給も大分上がってきているので、アルバイトもしながら、ぜひ、県内の大学に頑張って進んで欲しいと思います。

県外では、青森県学生寮が東京都の東京学芸大学のすぐ近くにあります。これは男子寮です。保護者が青森県の住民であって、東京やその近郊の大学に進学する男子大学生が入ることができます。入寮費が年間3万円、寮費が月額3万円と弘前大学の寮とほぼ同じ金額です。ぜひ東京に進学して、寮生活をして一生懸命勉強したいというのであれば、こういう寮もあります。入所する学生をどんどん募集しているので、ぜひここで学んでもらって、将来青森県に戻って来て欲しいなと思っています。

